

「人財」でお困りなら

株式会社
mi ミヨシ・ロジスティクス

042-779-6619 <http://miyoshi-log.co.jp/>

題字制作：株式会社クライムエヌシーター

KANAKEI

かながわ経済新聞

人と会社を育てる
Business Design

<http://www.business-design.co.jp/>
042-730-7886

代表取締役 じんく

2016年 11月号 Vol.035

「ロボ普及がもたらすもの」③

前回までは「ロボットの現状から今後」というマクロ的視点でお話ししました。今回はミクロ的な視点、当社の取り組みについてご紹介します。

現在、当社は製造におけるアウトソーシング事業（請け負い・派遣）をメインに手掛けている。製造業に位置しながらも、自社製品があるメーカーではなく、設備がある加工業者でもあり、また人々を主とした事業です。

そうしたなかで、当社も人口減少による少子高齢化の影響を少なからず受けています。そのため、以前は「雇用」というテーマでも書きました。そして、前回のテーマ「ロボット」につながってきます。

今まで何回か出てきましたが、これから事業を継続・発展させていくには、現状の経営資源（とりわけ人）だけでは必ず限界があります。そこで女性、シニア、外国人、そして「ロボット」なのです。今後の新しいビジネスモデル



吉田英訓の
着眼大局 着手小局
～人と企業～

ルとしては、人だけではなくロボットも、大事な経営資源になってくるのではないかと考えます。

当社ではことし、ロボットを導入したばかりです。今は構想段階ですが、課題も少なくありません。ただ、5年、10年後といたった近い将来には、必ず今以上に必要になると考えています。

以前、南西フォーラムの講演会でもありましたが、「人とロボットが協働する未来社会」は必ず訪れます。その未来社会に向けて、今から準備することが、大変重要だと思います。当社では、最終的には人のみならず「ロボット」の派遣もできれば、どの構想もあります。

（ミヨシ・ロジスティクス 代表取締役、南西フォーラム 委員長）

かながわ経済新聞 2016.11月号

吉田 英訓の
連載記事が掲載されました。